

# 内発的 社会統合政策を拓く

今回は「内発的社会統合政策を拓く」をテーマに、韓国の雇用許可制のもとで働くベトナム人移住労働者の経験と、社会的包摂・社会的統合をめぐる議論の双方から、これからの社会統合のあり方について考えます。

韓国では、雇用許可制（E-9）のもとで受け入れられた移住労働者について、一定の条件を満たすことで、より長期的な滞在や家族との生活、職業選択などにつながる在留資格への移行の道が広がりつつあります。加藤報告では、ベトナム人移住労働者へのインタビューをもとに、こうした「資格上昇」が移住者の選択肢をどのように変えるのかを検討します。制度上の選択肢が広がることは、必ずしもそのまま自由の拡大を意味するわけではありません。移住者自身が、制度的制約のなかでどのように将来を構想し、選択し、生活を組み立てているのか、そのエージェンシーに焦点を当てます。

続く明石報告では、「社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）」と「社会的統合」の関係をあらためて問い直し、私たちが目指すべき社会的統合とは何か、多様性を尊重する社会とはどのようなものなのかを考えます。

二つの報告を踏まえた全体ディスカッションでは、移住者自身の選択や主体性を起点としながら、受入れ社会の制度や環境をどのように構想していくことができるのか、「内発的社会統合政策」の可能性について議論します。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時

2026年11月7日（土） 10:00～12:00

会場

明治学院大学 社会学部付属研究所

（大学構内には入らず、国道1号／桜田通から入っていただくとスムーズです）

## プログラム

10:00～10:05

開会挨拶 加藤 丈太郎

10:05～10:35

報告 1

「資格上昇と自由の逆説

——韓国・雇用許可制におけるベトナム人移住労働者のエージェンシー」

加藤 丈太郎（明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 准教授）

10:35～10:50

質疑応答

10:50～11:10

報告 2

「社会的包摂と社会的統合

——多様性を尊重する社会を考える」

明石 留美子（明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授）

11:10～11:20

質疑応答

11:20～11:25

休憩（5分）

11:25～11:55

全体ディスカッション

「内発的社会統合政策を拓くには」

進行：明石 留美子

11:55～12:00

閉会挨拶 川村 千鶴子（大東文化大学名誉教授・多文化社会研究会理事長）